

施設一体型小中一貫校の開設を目標とした経緯

1 小中学校をめぐる課題

全国的に少子化が進む中、毛呂山町でも児童生徒数が減少し、小中学校の小規模化が進んでいます。今年度から、小学校では段階的に35人学級が全国的に導入されましたが、今後の毛呂山町の児童生徒数の推計では、町内の小学校全校で単学級が生じる見込みです。

また、児童生徒数が減少すると、学級数をもとに配当される小中学校の教員数が減少することになり、教科担当教員の配置が難しくなったり、少ない教員数で学校運営を行っていかねばならなくなります。

一方、本町の小中学校の多くは昭和40年代に建築された校舎が多く、ほとんどが建築後50年程度経過しています。両中学校の校舎と体育館は大規模改修工事が終了していますが、小学校では毛呂山小学校の体育館を除き、大規模改修工事は未実施で、町の厳しい財政状況のなか負担が大きくなることが懸念されます。

2 課題の解決に向けて

教育委員会では、毛呂山町の将来を担う子どもたちにより良い教育環境を提供し、小中学校をめぐる課題を解決するため、町内各種団体から選出された皆さんに検討していただいた結果をもとに、平成30年度に「未来を拓く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト基本方針」を策定しました。

このプロジェクト基本方針では、小中一貫教育とそれを支えるコミュニティ・スクールを推進することにより、小中学校をめぐる課題を解決し、子どもたちの「生きる力」を育成します。そしてこのプロジェクト基本方針をもっとも効果的に推進できる学校の形態を、中学校区ごとに小中学校を集約した「施設一体型小中一貫校」とし、開設を目指すこととしました。

3 毛呂山町が目指している目標

- 毛呂山中学校に、毛呂山小学校と泉野小学校を集約する
(開設目標 令和10年4月1日)
- 川角中学校に、川角小学校と光山小学校を集約する
(開設目標 令和8年4月1日)